

# 生産現場をデジタルで変革

(株)勝山工作所



スマートフォンを使って加工指示書の2次元コードを読み取る

金属製品のプレス・機械・溶接製缶加工を手がける勝山工作所は、材料から組み立てまで一気通貫で受注し、顧客の多種多様なニーズに応える高品質のサービスを提供している。しかし製品の種類が多岐に渡っており、生産関連情報の一元化や熟練者から新人への技術伝承の難しさなど、中小企業特有の課題を多く抱えている。また北九州市若松区内に3工場を保有し、工場間のデータ共有がスムーズにできていないため生産に支障が生じることがあり、これらの対策として2018年頃からIoT導入を模索してきた。

## FAISと連携して環境整備

このほど市内中小企業と北九州産業学術推進機構（FAIS）とで開発した、モノづくりIoTシステムを活用でき

### Company Profile

会社名 (株)勝山工作所  
(北九州市若松区南二島2-12-5)  
代表者 代表取締役 井上 勇雄  
資本金 1000万円  
売上高 7億7000万円  
(20年5月期)  
URL <http://katuyama.co.jp>



る環境を整備した。具体的には作業進捗<sup>しんちよく</sup>見える化システム「ピヨット」と生産進捗見える化システム「HiBiKit（ヒビキット）」を導入、生産現場のデジタル変革（DX）を本格的にスタートさせた。

まずは機械工場に専用のスマートフォンを配置し、加工指示書の2次元コードを作業前後に読み取り、PIYOT（ピヨット）を通じてデータを蓄積する。データベース内に情報をリアルタイムに一元化するため、工場全体のデータ活用による生産性・品質改善が期待できる。

## 負担軽減で働きやすい職場を

今後は3工場と本社事務所間を情報共有するために、新たな生産管理システムの導入も検討する。HiBiKit（ヒビキット）などと連携し、受注から出荷まで一連の工程をデジタル化して生産を効率化、働きやすい工場を目指して行く。井上博文取締役営業部長は「データ転記の手間やヒューマンエラーをなくす。従業員の負担軽減で働き方改革にもつなげたい」と期待している。



材料から組み立てまで顧客の多種多様なニーズに応える